

優秀賞

高校生部門〈言葉の力〉

鹿児島県立武岡台高等学校 1年

原口 汰樹

救いの言葉

「今、私たちはなぜ生きているのだろう。何をするために生まれてきたのだろう。生きていてもただ疲れるだけだし、こんなことならいつそのこと…」と思い始めたのは、高校に入学してからすぐであった。人生で一番輝かしい三年間に、期待と希望を寄せながら入学した。しかし、現実はその甘くはなかった。毎日勉強、家に帰っても勉強、登下校の間も勉強、中学の頃とは比にはならない勉強と宿題の量、正直うんざりしていた。そんなつまらない毎日を、ただ何も考えず、ぼーっと過ごしていった。

六月、高校にもだいたい慣れ、友人関係を築けている時期。昼休みはいつも複数人の友人と昼食をとる。

「ねえ。人間って何をするために生きていると思う」

自分でも気付かない内に、私はこんなことを言っていた。変に思われてしまったと私は焦っていた。

「大切な人を守るためだろ」

ある一人の友人が言った。周りは笑ってその友人を馬鹿にしているようだった。しかし、私にとってはすごく心に響く衝撃的な一言だった。たしかに、ありがちでくさく感じる言葉ではあるが、だからこそ、この時の私の心には響いたのかもしれない。真っ暗な部屋に窓から朝日が差し込んだようなこの言葉、私は一生忘れないだろう。

家族・友人・仲間、大切な人を守ることに全てつながると思う。今は、勉強の毎日だが、それがつながることを信じて、一日一日を全力で大切に過ごしていこうと思う。

「大切な人を守る」まさにこれが、生きぬく力の原動力なのだ。